



## カルチャーカフェのご案内

一月の川一月の谷の中 龍太

皆様、あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願いたします。

1月のカルチャーカフェは、初登場のテーマ、児童文学です！ こどものころ、わくわくした思いで、「秘密の花園」を読んだ方は、いらっしゃいませんか。「ふくろ小路一番地」「飛ぶ船」「くまのパディントン」そしてハリーポッターにいたるまで、イギリスのこどもたちのお話は、私たち日本に住む人間にとっても、どれほど冒険心を育て、想像力をかきたてるものだったことでしょう。今回は、講師の植松のぞみさんが、わざわざイギリスから来られ、児童文学の中にひそむ構造について解説をさせていただきます。大変貴重な機会ですので、ぜひ皆様ご参加ください。(参加無料 軽食・スイーツつき)

**1月25日(金)19:30-21:30**

**公文式オーバーカッセル教室にて**

**Niederkasseler Kirchweg 112, 40547 Düsseldorf**

**Tel 0211-573573**

(日本人幼稚園の2軒隣です。付近に路上駐車できます。)

**講師：植松 のぞみ(うえまつ のぞみ)**

アメリカ合衆国アラスカ州生まれ。千葉県出身。ケンブリッジ、ロンドン大、シェフィールド大学を経て現在英国ダラム大学言語文化学部日本研究科にてティーチングフェロー。研究テーマは1980年代の日英比較文学・文化。新自由主義における女性の自由と「幸福」というテーマで英国サセックス大文学博士号取得。よしもとばななやジャネット・ウィンターソンなどの女性文学、児童文学、ジブリのアニメなどをジェンダーとセクシュアリティの視点から読解している。

**テーマ：「世代を超えた連帯をソウゾウする：児童文学からアニメへ」**

子どもから大人まで人気のあるジブリ作品ですが、よくイギリスの児童文学作品からアニメ化されています。今回は、ファンタジーというジャンルに注目し、『思い出のマーニー』(2004)と『ハウルの動く城』(2014)に隠れる政治性を紐解いていきたいと思えます。「こどもと政治」というと、水と油、相反する関係と感ぜられるかもしれません。しかし、児童文学の主な読者層は、実はこどもたちだけではありません。この2つの作品には、老婆と子どもという共通した関係性を通して、語りつなぎ、紡ぎ続けるメッセージが隠されているようです。ご一緒に考えてみませんか。

**どなたでもおいでください。ただし、会場準備の都合上、1月21日(月)までにお申し込みくださいますよう。**

**連絡先：[culturecafe@outlook.jp](mailto:culturecafe@outlook.jp) Tel:0211-573573 (月・木 14:00-19:00)**